



IZU DRIVEのイメージ

クリエイターの視点で 新たな伊豆の魅力を 創出・発信

Happy Monster (ハッピーモンスター) 代表

植田俊司さん



東京都出身。39歳。

デザイン映像の専門学校を卒業後、プロカメラマンのアシスタントになる。25歳でフォトグラファーとして独立。音楽、ファッション系のポートレートなどを手掛け、個展なども開催。カリフォルニアのサンディエゴに1年間滞在した際、サーフィンをした後に仕事に出かけるといったカルチャーに触れ、田舎暮らしを考えるように。

29歳の時、下田の白浜に小さな家を借り、東京へと仕事に出かけるような生活を続ける。32歳の時、仕事で知り合ったスタイリストの明日香さんと結婚。結婚を機に、本格的に移住をする為、河津町内に物件を購入。結婚式、七五三、マタニティフォトから、5~6年前から始めているドローン

空撮などを駆使したPR映像、広告動画などの製作も請け負う「ハッピーモンスター」を設立。奥さんもカメラマンとして仕事に参画し、3児の子供も授かった。昨年には、自宅隣の家を購入し、自前の写真スタジオも設け事業も順調に推移。確かな経験とそのセンスから民間企業、観光関連団体、行政の仕事も幅広く手掛け、下田市の移住促進プロジェクトでは、移住者の自然な表情を映像とオリジナル音楽で見事に表現。出来る仕事は何でもこなし、時には、地元の若いアーティストを採用するなど、柔軟な仕事ぶりにも定評がある。

地元の祭りや消防団活動にも積極的に参加。「尊重すべき伝統は伝統として継承すべきですが、伝統に縛られてばかりではダメ。変えていくべきところは変えていくべきです」との持論も。仕事を通じ、観光地な

らではブランディングに関わっていききたいという意気込みにも強いものがある。

そんな思いもあってか、今年夏「IZU DRIVE」という新事業を立ち上げた。伊豆は意外と遊ぶところが少ない。しかし、信号が少なく、気持ちのいいドライブが出来るところが魅力。そこで、白のオープンのポルシェをレンタルしてもらって、ドライブを楽しんで頂こうという企画。新たな伊豆の魅力を創出すべく、クリエイターならではの視点で切り込んでいる。

「クリエイターこそ田舎に住むべきだと思いますね」と、ふと漏らした彼の言葉にその自信が垣間見える。人々や地域を幸せに導く、柔軟な発想力、表現力、そして行動力。ハッピーモンスターの名前に得心した。

Happy Monster

〒413-0503 静岡県賀茂郡河津町見高 2297-140
☎&FAX 0558-34-1306
http://www.happymonster.info/

釣りガール倍増計画! 地域と共に

ゲストハウスDaja (だじゃ) オーナー

松原淑美さん



大阪生まれ。5歳の時に神奈川県へ移住。自立心から、高校卒業後は祖母のいる大阪へ再び戻るが、26歳の時に神奈川県へ戻り就職。営業アシスタントとして営業マンを補助する仕事に就く。元々人と接する事が好きな性分から、アシストする人の仕事効率や負担軽減の為に...と、仕事にのめり込んでいくようであったと当時を振り返る。30代に入り病の為に体調を崩し、仕事は好きだったが、体調を整えるために35歳で止む無く退職。実家をでて一人暮らしをしながら新しい仕事と模索している中、「釣りが好きなんだから、伊豆にでも住めば」という母親の何気ない一言に「そうだ」と思い立つ。ところがハローワークでは伊豆の求

人が中々見当たらない...諦めきれず、次に閲覧した行政のホームページに「地域おこし協力隊員募集」を見つける。締め切りは1週間後(私に何が出来る?)と考えないではなかったが、迷っている暇はなかった。そして4年前、地域おこし協力隊員として南伊豆町の妻良に移住した。3年の任期中、彼女は地域のお祭りや催し、活動に積極的に参加し、自ら地域の人々の輪に入っていく。意外と知られていなかった「地域おこし協力隊」の存在を知ってもらう事からまずは始めた。そんな彼女の周りには、いつしか「仲間」と呼べる人たちがたくさん集まってきた。そして協力隊員の任期が終了。彼女はここで大きな決断をする。空き家になっていた民宿を買い取り、ゲストハウスとして開業する事にしたのだ。借金というリスクを背負い、知らない土地で起業する事の心境を聞いた。「ここは過疎化が激しく、光通信などの情報インフラも整備されていません。正にないない尽くしなんです。だからこそ挑戦するんです」と、その決断には一切の後悔はない。彼女自身がガイドとなり、釣りガールを増やし、町の活気に繋げていくといった「釣りガール倍増計画」は注目を集めることとなり、今年の2月に行われた「みんなの夢アワ

ード」という事業プレゼンの場では、ファイナリストに選出され2千人を前にプレゼンし、名だたる企業から協力の申し出を受けた。県や、団体・大学から講演依頼がくるようになり隊員としての活動や起業に至ったまでの経験を話している。7月1日、ゲストハウスの船出を祝う会が家族やたくさんの仲間と共に行われた。商売をしていて最後まで大反対をしていた父親が「こんなにたくさんの人たちに応援して頂いているなら...」と認めてくれた。

「この場所を、地域からもお客様からも愛される場所にしたんです」そう語る彼女の瞳は、伊豆の海のようにキラキラとしていた。応援したくなる人である。



宿近くの子浦港と
ゲストハウスの
共有スペース



Guest House Daja

〒415-0532 静岡県賀茂郡南伊豆町子浦1626
☎ 090-1679-3260(松原)